

## 早咲き桜・二宮尊徳・酒匂川

### こんなところに桜並木があったんだ！

81 回目の誕生日の翌日(3/16)、いつもの週の水曜日と同じように小田原テニスガーデンについてオンボロ N Wagon から降りた私の目に、長ーいピンクの色帯が目に入りました。「おやっ、何？」と目を凝らしてみると、酒匂川の対岸の河畔に長く伸びた桜並木の艶姿でした。小田原テニスガーデンに通い始めて 10 年くらい経っているのに、はじめて「こんなところに桜並木があったんだ！」と気が付いてビックリ。俄かに桜狩人魂が燃え上がってきて、テニスもそこそこに花見にしゃれ込むこととなりました。81 と言えば  $9 \times 9 = 81$  で九九掛け算の終着駅です、下手っぴテニスもそろそろ終着駅かなと思える一面で、桜狩意欲は老いてなおますます盛んと思えるような状態ですね。

### 一足早い春の到来の風情を満喫

ここ小田原テニスガーデンは小田原市の北部にあって、小田急線蛭田駅から徒歩約 13 分、富水駅から徒歩約 17 分の、酒匂川の右岸部の近くに位置しています。そこで、N Wagon は小田原テニスガーデンに置き去りにしておいて、徒歩で下流側の富士見大橋を渡って桜並木観覧に及びました。先ずいきなり現れたのが道路の右手のガードレールの外に立ち並ぶ満開の桜の樹々でした。早咲き桜と言え、東伊豆河津町を流れる河津川の両岸に立ち並ぶ河津桜が有名ですが、ここも河津桜を移植して新たな花見どころを設けた上流の松田町の真似をしたのかと思ったのですが、花色が穏やかなので後に調べたところ、河津桜ではなくて、寒緋桜との混種で河津桜を生んだ大島桜らしいということが分かりました。樹齢も 10 歳を超えているように見え、とても付け焼刃の桜並木には見えません。



先刻小田原テニスガーデンから見えたのは、ここ富士見大橋から上流の富士道橋の間およそ 750m の間を埋め尽くしている満開の桜並木だったのですね。なかにはピンクがかった河津桜風もあります。こうして若き桜の樹々が、精一杯に満開の花を咲かせているのに花見客はごくわずか。コロナ禍のせいもあるでしょうが、桜狩人を認ずる私自身が偶然に初めて知ったのですから恐らく広報不足によるものでしょう。しかし、静かな雰囲気の花見を楽しむのも良いものです。行程およそ 40 分の間桜の樹々に声をかけながら一足早い春の到来の風情を満喫してきました。

### 今は静かな昔の暴れ川

ふと左に目を転ずると、岸辺を菜の花で彩られながら酒匂川が静かに水を運んでいます。富士山の東麓と丹沢山地の西南部を主な源流とし、JR 東海の御殿場線・東名高速道路と並走するように流れ、丹沢山地と箱根山の間を抜け足柄平野を南下、小田原市で相模湾へと注ぐ酒匂川。かつては暴れ川だった様子で、少し上流域にあって小田原市と境を接する開成町には、我々が 3 組の恩師・府川一郎先生がお住まいだった牛島、吉田島高校のある吉田島、金井島といった島の付く地名の土地があります。



恐らく、洪水で周囲が没し島状に見られたから付けられた地名なのでしょう。江戸時代後期に起こった洪水では被災村落がひどく困窮し、二宮尊徳の報徳仕法で復興したとも伝えられています。小田原でも水害が起こることはあるのですが、酒匂川水域での被害が少ないのは二宮尊徳の治水活動によるところが大きいのではないかと考えていました。

## 二宮尊徳がなぜ相馬なの？

福島県いわき市に本拠を置いていた 2004 年に私は福島県内の花所をありったけ探訪しようという挙に出ました。その中で相馬市にある中村城跡公園・馬陵公園を訪れた結果についてマイホームページの「さくら狩人・福島ふとどき風土記」(<http://h-sasaki.net/SakuraFukushima-a.htm>)に次のように書いています。

### 二宮尊徳がなぜ相馬なの？

城址の散策を続けていると、「二宮尊徳と相馬の仕法」と書かれた看板が目に入りました。あれれ、二宮尊徳は我が故郷・小田原ゆかりの人のはず。お堀端から程近いところに二宮神社があって我が母校・本町小学校（現在は城内小学校と併合して三の丸小学校）の校歌にも「♪♪♪二宮神社の銀杏の若葉♪♪♪」という一節があったはず。書かれているところによれば、相馬藩が財政上の危殆に瀕していた時に二宮尊徳の説く「興国安民の法」（これを相馬では「御仕法」と呼んだ由）を採用したことが相馬中村藩の人々に生きる力と光を与えたのだそうです。

### ♪♪♪手本は二宮金次郎♪♪♪

二宮尊徳の方法とは、単なる農村の改良などという程度のものではなく、広い世界観と人生観の中から生まれた得を以って得に報いる「報徳」というおらかな指導理念に基づくものだったということです。理念に基づいて確固たる指導方針を打ち出した政府コンサルタント（二宮尊徳）も偉ければ、それを率先して採り入れ徹底して実践した地方公共団体の首長（相馬藩主）も同じく偉かったのだと思います。

## 期待や切なり今様二宮尊徳の出現

更に、福島原発事故によって佐々木日本語教室が休業となって神奈川県藤沢市辻堂に本拠を戻してしばらくしてから、小田原市が災害復興支援に当たっていた南相馬市に、当時の加藤憲一市長をはじめとする小田原市民がバス 2 台に乗り込んで現地慰問に訪れるという話を聞いて藤沢市民の私ももぐりこんでこれに参同しました。そし

て南相馬市にも「報徳会館」が建てられて「あれれ、二宮尊徳は我が故郷・小田原ゆかりの人のはず」なのにとさらに強く思いました。そして、現地慰問団の中にあっても少しも偉ぶらずに爽やかに振舞い続けている加藤憲一前市長の姿を見て、「この人が今様二宮尊徳となって治水重点の政治を行なってくれれば」と勝手に期待したものでした。その後、加藤憲一前市長が小田原高校の後輩であり、11期同期生の故望月郁文兄(3組)が開いた愛児園の卒園生でもあるということが分かり、我らが小田高11期生の”個”展にもお出でいただいて親しく交信させていただけるようになりました。そして、故望月郁文兄逝去の際の交信で、かつてからの願いを込めて「どうぞ、今様二宮金次郎となられて治水等の”インフラ整備国防”を進めてくださいますように」と申し上げたのですが「国政については全く考えておりません」というお返事が得られたただけでした。二宮尊徳について改めて調べてみると「経世済民を目指して報徳思想を唱え、報徳仕法と呼ばれる農村復興政策を指導した」とありました。ことによると、報徳仕法は農村復興政策であって治水は報徳仕法だったのかもしれないですね。いずれにしても住民に避難を呼びかけるだけの地方自治体に成り代わって、”インフラ整備国防”の旗を振る自治体リーダーにお目にかかることができたらと願っています。